

令和3年 3月19日

白老町議会  
議長 松田謙吾様

総務文教常任委員会  
委員長 吉谷一孝

### 所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

#### 記

- 1 調査事項 白老町のアイヌ施策の現状と課題
- 2 調査の方法 (1) 事務調査  
(2) 分科会懇談会
- 3 調査日程 (1) 令和3年1月22日(金) 事務調査  
(2) 令和3年2月16日(火) 分科会懇談会  
(3) 令和3年3月5日(金) 事務調査
- 4 出席委員  
委員長 吉谷一孝 副委員長 佐藤雄大  
委員 前田博之 委員 大淵紀夫  
委員 氏家裕治 委員 小西秀延
- 5 説明のために出席した者の職・氏名  
アイヌ総合政策課長 笹山学 アイヌ総合政策課主査 江草佳和
- 6 団体からの出席者  
(1) 分科会  
一般社団法人 白老アイヌ協会 理事長 山丸和幸様ほか3名
- 7 職務のために出席した者の職・氏名  
議会事務局長 高橋裕明 主査 小野寺修男

## 8 調査結果

本委員会は、白老町のアイヌ施策の現状と課題について、担当課から説明を受けて経過、現状及び課題を把握し、分科会において白老アイヌ協会との懇談を行うなど所管事務調査を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

### (1) 総務文教常任委員会

#### 【経緯と現状】

近年の白老町におけるアイヌ施策は、昭和 23 年（1948 年）白老アイヌ協会の設立、昭和 42 年（1967 年）町立白老民族資料館の開設、昭和 51 年（1976 年）（財）白老民族文化伝承保存財団（昭和 59 年（1984 年）に（財）アイヌ民族博物館に改称）の設立などによって取り組まれ、その後の法律制定や国際連合・国会による宣言・決議などにより、町においても方針・計画の策定により事業が実施されてきた。

白老町総合計画でのアイヌ施策の位置づけは、第 2 次ではアイヌ民族文化の伝承保存、第 3 次ではアイヌ民族文化活動の充実及び国際民族文化交流拠点の形成、第 4 次ではアイヌ民族博物館の運営及び中核イオルの整備促進、第 5 次では民族共生の象徴となる空間の整備促進、現在の第 6 次ではアイヌ文化の理解促進・普及啓発、アイヌ文化伝承活動団体への支援、アイヌ文化の伝統的生活空間の再生を掲げている。

また、平成 19 年（2007 年）には白老町アイヌ施策基本方針を策定した。その目的は、①アイヌ民族の誇りを高める。②全町民がアイヌ民族への正しい認識と理解を深める。③互いの文化を尊重し合える社会の実現に努める。④多文化共存による地域繁栄を推進する。ことであり、重点施策として、㊦アイヌ民族、文化を正しく認識し尊重する社会を創造します。①アイヌ文化の振興と伝承に努めます。㊧アイヌ民族の歴史や文化に関する教育の振興を図ります。㊨産業の振興、生活環境の充実に努めます。㊩アイヌ民族に関する行政を総合的に推進します。として、基本方針に基づく計画の作成、施策の実施等が明記された。

さらに、令和元年（2019 年）5 月に施行されたアイヌ施策推進法に基づき、白老町におけるアイヌ施策を推進するための地域計画を策定し国の認定を受け、文化振興事業、地域・産業振興事業及びコミュニティ活動支援事業などを実施している。

#### 【課 題】

アイヌ総合政策課からは、町の基本方針の策定から 10 年以上が経過し、アイヌ施策推進法では、従来のアイヌ文化振興や生活向上施策に加え、地域振興、産業振興、観光振興等も新たに支援措置が実施されることとなっているが、課題として町の方針が現在のアイヌを取り巻く状況や新法の趣旨を十分に反映できていないため、令和 3 年度に白老町アイヌ施策基本方針等の見直

しが予定されている。

また、白老アイヌ協会からは、町のアイヌ文化に関する更なる発信による理解促進及び白老町のアイヌ文化の伝承や儀式の充実が必要であり、特に精神文化を伝えていくことが重要であると示された。さらに協会として収益事業も含めてアイヌ文化伝承活動を自立して進めたいが、町との連携や役割分担も必要としている。文化伝承や人材育成などでは多くの人が参加できる体制づくりや事業の拡充が課題である。

#### 【委員会意見】

- これら白老町のアイヌ施策の現状と課題を調査した結果、本委員会では、現在の状況に至るまでの経緯を踏まえ、将来への展望・取組を明確にしておくことが必要であるとの意見がまとめられた。具体的な課題としては、①国と町の役割・施策の違い、②自立や権利に関わる内容、③精神文化の捉え方、④アイヌ団体の拡充・協調などを挙げた。
- 課題解決に向けた第一歩として「町としての姿勢を町民に示さなければならない」との意見があった。そのためには平成19年度に策定した白老町アイヌ施策基本方針を見直し、推進計画の策定を促す必要がある。また、方針や計画の改定にあたって、本委員会からはアイヌ関係者の意見、町民のニーズや参加方法などを調査して、計画執行・取組みについても調査が必要である。
- 白老町のアイヌ施策の充実には、行政だけで取り組むには限界があるため、アイヌ関係者や町民と協働し推進を図ること。文化活動と経済活動、生活向上のどれに重点を置いていくのか認識の共有化と着実な推進が必要である。
- 活動施設などの改築には、多額の財源が必要となるが、町費だけでなく、国や道の補助金、交付金の有効活用を図り、町が事務局となって内容を十分に協議し推進していく必要がある。
- このたびの所管事務調査は、白老町のアイヌ施策の現状と課題を取り上げたが、施策の推進には、町の状況をはじめ、北海道や国、さらには国際的にも大きく影響を与えていることが明確になり、そこで活動するアイヌ関係者の立場や状況も鑑みて、今後、本委員会としても調査・検証を続け、方向性や取組みを示していくこととしたい。

#### (2) 総務文教分科会

総務文教分科会は、一般社団法人 白老アイヌ協会との懇談を実施した。なお、その内容については、別紙「活動報告書」のとおりである。

## 総務文教分科会の活動報告書

令和3年3月5日

総務文教常任委員会

委員長 吉谷 一孝 様

総務文教分科会

主査 佐藤 雄大

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 一般社団法人 白老アイヌ協会 (参加者 4名)

日程・会場	令和3年2月16日、会場：白老町議会第1委員会室 午後5時00分～午後6時40分
懇談テーマ	白老町のアイヌ施策の現状と課題について
出席委員名	主査 佐藤 雄大、副主査 吉谷 一孝、 委員 前田 博之、委員 大淵 紀夫、 委員 氏家 裕治、委員 小西 秀延
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	<p>白老アイヌ協会との懇談は、正副理事長、事務局長及び相談員の出席により開催した。</p> <p>○白老アイヌ協会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 従来、北海道アイヌ協会白老支部であった組織を令和元年5月に一般社団法人格を取得して新生の協会としてスタートを切り、現在の会員数は223名である。白老町で翌年に開設される民族共生象徴空間（ウポポイ）の委託業務等の受け皿になればとの考えもあった。</li><li>・ 事業としては、アイヌ文化の伝承保存、実践事業をはじめ、文化の普及、啓発のための講演、公開、学習等の教育事業、伝統文化に基づく物品や料理の開発と販売事業、及び国、地方公共団体等からの委託事業などとしている。また、従来からの祭事は継続している。</li></ul> <p>法人組織としては、経営部門の黒字化をめざしている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ サークル活動団体との連携により刺繍など手工芸は女性団体で継承されてきたが、儀式や狩りなど男性の仕事とされてきた文化継承が課題である。</li></ul> <p>○白老町のアイヌ施策に対する課題・展望</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 町では、国連総会において「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択された平成19年9月に「アイヌ施</li></ul>

	<p>策基本方針」を制定し、様々なアイヌ施策の土台となってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道内で2番目に多い会員数をもつ本町の特徴を活かして、さらなる交付金や補助金を活用した事業の実施、町のアイヌ文化に関する更なる発信による理解促進、及び白老地域のアイヌ文化の伝承や儀式の充実が必要であり、特に伝承してきた精神文化を伝えていくことが重要である。</li> <li>協会では収益事業も含めてアイヌ文化伝承活動を自立して進めたいが、町との連携や役割分担も必要である。</li> </ul> <p>○白老町のアイヌ施策への提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイヌ文化を白老に根付かせる教育、例えば高等学校に民族文化等の特科設置や小中学校における授業の更なる教育の充実、人材育成が重要である。</li> <li>アイヌ新型交付金等を活用して図書館等の施設整備を</li> <li>交流促進バスの利活用で町内全体の歴史、文化巡りができるように</li> <li>商店街周辺の駐車場確保による呼び込み増大を</li> <li>箱もの整備から精神文化の伝承など更なるソフトの支援を</li> </ul> <p>(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回、白老アイヌ協会との懇談を通して、取組内容や現状・課題が伝えられたが、今後、白老地域のアイヌ文化を発信して、特徴を活かした伝承の確立が必要である。</li> <li>文化伝承や地元人材の育成などではウポポイの地元職員も多く参加できる体制づくりや拡充が必要である。</li> <li>地元工芸技術やガイド人材などを生かして、来訪者の増加とともに、経営面での安定化を期待する。</li> <li>今後、白老町として町独自のアイヌ文化振興をどのように取り組むべきか、白老地域のアイヌ文化を理解しながら、議会の役割をもって、行政に提言していくことが必要であるとの認識が深まる有意義な懇談であった。</li> </ul>
--	--